

みんなの目・芽・めっ No.111 2021年3月

発行 特定非営利活動法人住みよいかくらをめぐす風おこしの会 理事長 星野洋子 事務局 大石 ☎ 0946-42-4790

あすみんとの共同事業 朝倉市地域コミュニティ事務局長会出前講座

テーマ： 未来につなぐ『男女共同参画で地域力UP!』

住民の生活の場である地域コミュニティ。今、加速化する少子高齢化で厳しい運営を迫られており、「今まで通り」ではない運営の手法や改善が望まれています。

風おこしの会では2012年（平成24年）から『朝倉市提案公募型協働事業』受託を皮切りに、「男女共同参画で地域づくり」と称して、地域コミュニティの皆さんに出前講座を行ってきました。好評でしたがコミュニティの実情はそう変わらず、私たちの力の無さを感じていました。

そこで新たに地域の維持・活性化につなげようと、本年4月朝倉市男女共同参画センターあすみんが設立されたのを機に、あすみんとの共同事業として地域コミュニティの要でもある事務局長会へ出前講座を行ないました。

日時 2020年12月4日(金) 15:40～16:50

場所 朝倉市庁舎別館2階

演題 みんなでつくるコミュニティ活動

風おこしの会 師岡愛美

日程 15:40 開会のことば

(井上係長より 本会の設定についての説明あり)

15:45 DVDとパワーポイントによる講話

16:16 意見交換(質疑応答)

16:45 閉会のことば



参加者 地域コミュニティ事務局長 17名

市職8名ほど(井上男女共同参画センター長・男女共同参画推進青少年係

井上係長・同坂口さん 他5名ほど) 風おこしの会 8名

意見交換の内容要旨(フロアより)

①性差のこと

- ・男性、女性には特徴があり差がある。家事は圧倒的に女性が得意。集落の付き合い政治経済の話は男性の方だ。元々持っている性差をどう考えているのか。
- ・男性にも細やかな人はいるが。

②女性の反応

- ・役をすすめて行くと泣いて断る人もいる。家のことを第一にと支えているのだろう。
- ・女性を納得させないといけないが、無理に入れようと思っても、家のことがあるとかで今まで断られてきた。

特定非営利活動法人住みよいかくらをめざす風おこしの会だより

③ どうしたらよいか

- ・コミュニティの事業でも準備段階で女性も入れて良さを分かってもらおう。
- ・風おこしの会でもPTAなどに出かけて女性に対して説明すれば良いと思う。
- ・女性に役員に入ってもらうだけでなく、もう少し大きな広い意味でやって行かねばと思う。
- ・うちの役員は女性が40%。だが若い人が少ない。役員会にも、来られないスーパーマンより来れるあなたのほうが良いと、役員づくりでは言うようにしている。
- ・男性の役員さんたちから「背中を押してやるからやってみて」と言われて事務局長をしている。女性が活躍の場を持つためには後押しをして機会を作ってくれる男性が大切。地域の活性化に向けて、今は若い人たち(30歳代~40歳代)に「ちょっとコミュニティに顔出しして」と呼びかけている。

これに対して (師岡)

- ① では…そこを融和するのが男女共同参画社会であると考えている。男に向いている、女に向いているという考え方は個人本来の個性ではなく、育ちや環境の中で作り上げられてきたものと考えている。男だから・女だからではなく個人を尊重できる社会を創ろうと呼びかけている。
- ② では…女性自身も幅広い分野で役を引き受けることを前向きに考えていくことが必要だと受け止めている。家庭の役割のほとんどを担っている限り、時間的にも拘束されている。女性がやる気がない、政治に関心がない、意識改革がない。というのは偏見ではないか。日本は世界の先進国の中で女性の政治参画率が低い位置にある。政治に関心のある女性も多い。意欲と能力のある女性もいる。男性も応援してほしい。「頑張ってみたら」という男性側の理解と応援、家庭の協力が必要である。任せられるのは男性だという風潮があるを変えていきたい。

最後に (師岡)

朝倉市でも年々高齢化率は高くなっている。高齢者の一人暮らし、二人だけの生活も増えている。世帯数30位の行政区も多くなっており単独区での行事等の維持ができにくくなってきている。これは大きな問題であり、男だから、女だからという時世ではない。男も女も老若男女、知恵と力を合わせていく地域づくりが重要。風おこしの会も一緒に力を尽くしていきたい。

※短い時間ではありましたが沢山の意見が交わされコミュニティの実情がわかり、来年度につなぐ新たな課題が見えてきました。

- ・出前講座では参加してほしい対象をあらかじめ決めておいたかどうか。(ターゲットを絞る)
- ・パワーポイントは一律ではなく対象に応じたものに編集する
- ・講座は役員会の時や総会の時などを利用したらどうか
- ・あすみんとの連携で今後も活動をすすめたい Etc

地域の活性化は喫緊の課題です。住民の皆さんの多様な力を活かしながら、できることから進めていきましょう。

(師岡愛美・星野洋子)



令和2年度「現代課題対応研修」に参加して



10月8日（木）篠栗の社会教育総合センターで行われた現代課題対応研修に参加しました。コロナ禍の影響で直接対面方式での研修会は久しぶりで、当日は100名以上の参加者があり意識の高さを感じました。

風おこしの会からは、星野（事例発表者）、森部、中嶋、内山、古賀が参加しました。

【研修1】 講義は九州大学大学院工学研究院附属アジア防災研究センター 三谷 泰浩氏による「地域における防災・減災のありかた」と題して、前半は自然災害の種類についての説明と、それぞれの災害に対する対応の仕方を話されました。その対応を知る事によって防災と減災に繋がる事が理解できました。

後半は平成29年の九州北部豪雨災害での被害結果をもとに、九大と東峰村の行政と地域住民が一体となって、災害リスクコミュニケーションに取り組んだことを説明され、その結果災害に対する知識や意識が向上し、自助・共助・公助・互助の重要性も確認できたそうです。日ごろ防災では聞きなれない互助の重要性、平常時は福祉・教育に使いますが、災害時は防災にも重要であると言われたのが印象的でした。その後、東峰村G空間情報収集システムや東峰村災害伝承館を作られ、災害伝承館は見学もできるそうです。

最近では、AIで地域ごとに6時間後気象状況が予測できる災害予測システムが開発され、NHKでも放送されました。地域住民の協力で得た情報（点）が線となり最終的にAI技術に繋がったことはとても素晴らしいことだと思いました。

【研修2】 風おこしの会 理事長 星野 洋子氏より「防災・減災に向けた私たちの取り組み」について事例発表をされました。

最初に風おこしの会の概要説明の後、平成29年の九州北部豪雨災害以降の防災・減災に向けた3年間の取組の説明がありました。毎年のフォーラムに加え、平成30年度に行った福岡県の男女共同参画センター（あすばる）との共催事業「あさくら元気塾」の全6回の講座を中心に話されました。



最後は「近年国際社会において「災害リスク軽減」とともに災害に強い社会の構築には、男女共同参画の実現が不可欠であることが強調されています。お話した新しい防災とは災害に学び、自助・共助・公助を軸に「男女共同参画」の横ぐしを入れることです」と風おこしの会ならではの締めくくりでした。

ここ数年、毎年のように自然災害が起こっています。決して他人ごとではなく、自分や家族、地域の事として捉え、防災や減災に向けた知識を得て行動することが大事だと感じました。

（古賀芳美）

風の音



私は怒っている、オリンピック組織委員会委員長の森喜朗元首相の発言に。男女共同参画は国家の最重要課題と言いながら森氏の発言は会議に女性は要らないと言わんばかり。森氏残留に疑義を問う署名がネットで行われたり、組織委員会内部から検証を行う動きなど出ているそうだが、あまたか、政治家なんてそんなものよねとため息をついて終わらせるのでなく、女性も男性もみんなもっと怒りの声を政治に届けよう！…と、書いたのは2021年2月上旬のことで、その後森氏は委員長を辞任、後任に女性閣僚が決定したが、この間の混乱は世事に疎い私にもかなりな惨状に見えた。

そのしばらく後、山田真貴子内閣広報官が現首相の長男から高額接待を受けたという報道があった。山田氏は「飲み会は絶対に断らない」と公言する辣腕広報官だそう。ここで私はようやく気がついた。重要事項は夜の飲み会で決まるのだ。会議の席で議論をしたり、会見の場で閣僚が回答に詰まるような質問をするのは、男女にかかわらず「わきまえた人」ではないのだと。その後山田氏は内閣広報官を自主退職、後任は再び女性であった。たったひと月の間の、目まぐるしく情けないようなふたつのドタバタ政治劇だった。

会議が議論の場として正しく機能するためには、もっと多彩で多様な意見が飛び交わなければいけないのだと思う。女性の議員や閣僚や管理職が増えるだけでは女性の意思決定の場への参画は達成されないだろう。女性がマイノリティの象徴であったのはもう以前のことなのだ、世界ではきっと。 (高木静子)

編集後記

本年度も終わりを迎えました。昨年一月から続いたコロナに翻弄された一年でした。コロナ禍の中、それでも「できることはやろう」と感染対策をとり実施し、初めての動画配信も行いました。

この四月には朝倉市の男女共同参画センターあすみんが開設され、十月・十二月とあすみんと共同事業を持ち、風おこしフォーラム（前号記載）は朝倉市と共催で実施しました。

また、福岡県の社会教育総合センターからは思わぬ講師の依頼があり、これまでの防災・減災への取り組みの報告を行いました。（3p）

この様に予定していた計画は、凶らずも十月から十二月に集中し、慌ただしくはありましたが無事に終了し、ほっとしています。

それにしても、三月には東日本大震災が十年を迎えようとしている二月十三日に福島県沖を震源とする地震の報道にはビックリしました。しかも、それが十年前の地震の余震と知り、二度びつくり。東北の方々の気持ちは如何ばかりかと思わずにはいられませんでした。

一連の講座を行なった身として、防災が忘災にならないように、常に振り返りたいと思っています。

（星野洋子）

右の四角いマークはQRコードといいます。スマホカメラやQR読み込みアプリを使ってQRコードを読み込めば、簡単に風おこしの会のホームページ（HP）やフェイスブック（FB）のページを見ることができます。ぜひ一度やってみてください。



HP



FB